

すべての学生が利用したくなる魅力的な 学習支援プログラムの在り方

～ 新たな学習支援の場をめざして ～

平成22年11月12日発表

大学職員情報化研究講習会(応用コース)

第4分科会 第2グループ

まず最初に・・・ 【現状の分析】

★図書館ガイダンス等の実施について

- ・開催時期・場所等の関連部署との調整が難しい
- ・申込制のものは、参加者が少ない
- ・新入生から図書館利用を修得できていない etc

★図書館員のスキルについて

- ・人事異動により図書館員としての知識が蓄積(利用)できない
- ・各業務(レファレンス、ガイダンス講師等)にあった研修がない etc

★図書館の利用環境について

- ・Webを利用しての図書館サービスが必要
- ・従来の「静」の図書館と新たな「動」の図書館との融合
- ・長時間利用できる図書館サービス・環境とは
- ・利用者が参加できる図書館サービスの検討 etc



《テーマ設定》

現状分析を基に各ポイントで目的を定めテーマを導き出した結果



テーマ&サブテーマ

すべての学生が利用したくなる魅力的な学習支援プログラムの在り方

～新たな学習支援の場をめざして～

テーマ設定におけるポイント 1

【利用者の満足度向上等に関するもの 1-1】



【目的】

学士力向上を目指し、これまでにない組織構成により、学生に対し新たな学習支援プログラムを開発し、推進する。

《例えば》

- ★学習支援プログラムについて、複数の部署で話あえる場を作る。
 - ・これからの図書館は受身ではダメ。何かを成し得たいのであれば積極的に中に関わっていく。
- ★入学から卒業までをトータルコーディネートした学習支援プログラムを作成する。
- ★教員と学生(学びと学生)の間をつなぐ役割を図書館が果たせるよう、職員のスキルアップを図る。(意識改革も含め)

etc

テーマ設定におけるポイント 1 【利用者の満足度向上等に関するもの 1-2】



【目的】

快適な学習環境を整えることで利用者の満足度を向上させる。

《例えば》

- ★個人席の増設やラーニング commons の設置・拡充。
- ★最先端のトイレ設備等を設置。
- ★オンラインレファレンスの導入により、学生が依頼しやすいWeb環境を作る。



etc

テーマ設定におけるポイント 2 【サービス・サポートの仕方に関するもの 2-1】



【目的】

利用者動向を分析し、双方向コミュニケーションを構築することで学生ニーズの取り込みを図る。

《例えば》

- ★利用者統計やアンケートを実施し、分析する。
- ★グループウェア等の利用者と双方向のコミュニケーションがとれるツールを導入する。

etc

テーマ設定におけるポイント 2 【サービス・サポートの仕方に関するもの 2-2】



【目的】

ICTの活用により、学生の利便性を向上させる。

《例えば》

- ★図書館に来ない学生にも、ICT活用により学習支援を行う。
- ★ユーザーレビュー、読書ノート機能等、インターネットに慣れた学生が使いたくなる機能を開発し導入する。

etc



テーマ設定におけるポイント 2 【サービスやサポートの仕方に関するもの 2-3】



【目的】

学生への多彩な広報活動や学生参加型の企画を通して、図書館への関心を高める。

《例えば》

- ★教員や学生との共同参加による企画展等を開催し、活動の様子をホームページ等に掲載する。
- ★クイズ形式の図書館ツアー等、利用者の関心を高めるための工夫をする。
- ★選書ツアー等、学生にとって魅力的な企画を実施する。

etc



テーマ設定におけるポイント 3

【組織の進化・構成員の育成等に関するもの】



【目的】

学習支援プログラムの質を高める。

《例えば》

- ★利用者の相談・指導を行なうために必要なスキルの修得。
 - ・論文作成ガイダンス等を行った際には、担当者はレジュメを作成し、ファイリングしていく。
 - ・他者のレジュメを見ることで改善し合い、質を高めていく。
- ★大学職員としての広い視点から考えるスキルを身につける。
 - ・学内の動きに敏感であること。すぐには連携に結びつかなくても、「このプログラムに対しては図書館としてこのような支援ができるのでは...」と構想をたて準備しておくことで、「図書館だからこそできること」に説得力をもたせる。

最後に・・・

【結論】

- ★図書館ガイダンス等の実施 ⇒ 教員・他部署との連携が必要
- ★図書館員のスキル ⇒ スキル向上が不可欠
- ★図書館の利用環境 ⇒ 新たな図書館のあり方「場」が求められる

いずれも、日々の地道な関わり、作業があってこそ成し遂げられるものである。「図書館だからこそできる」という意識を常に持ちながら学習支援に取り組むことが大切である。



ご清聴ありがとうございました



第4分科会 第2グループ
平成22年11月12日